テーマ：

どこで元気に育つかな？
みんなで一緒に考えよう！

愛知県
なごころ保育園
松田先生
林先生
澤田先生

この活動の特徴

「凛々子」活用のポイント①

自分たちで植える場所を決めて、
栽培の楽しさや収穫の喜びを経験した

「凛々子」活用のポイント②

保護者と毎日観察することで、
親子のコミュニケーションが充実した

活動のねらい

- 自分たちで栽培した食材を友だちと調理することで、食べる喜びを実感する
- 子どもたち自身で育てることで「五感で感じる力」を育む

活動の概要と流れ

対象学年：３・４・５歳（３９名）
実践期間：４月～８月

時期	学習活動
４月	「トマトマップ」を作成 それぞれ育てる場所に個人のシールを貼る 保護者にも関心を持ってもらうため、部屋の前に掲示
５月	定植
６月	毎日の水やり、観察 各々の「育ちの違い」に気付き、 途中で育てる場所を変えるといった工夫をする
７月	収穫 給食や調理実習（メニュー：ピザ）で味わう 各家庭へ持ち帰り、保護者と一緒にトマト料理を楽しむ

ここがポイント！取組の工夫と実践の成果

異年齢保育ならではの栽培方法の検討

幼児クラスは３～５歳混合の異年齢で編成されています。もちろん年齢が違うと子どもたちの理解にも差がありますが、どうすれば子どもたちが主体となって栽培活動ができるのかを職員で話し合いました。そこで決まったことは、「育てる場所を子どもたち自身で決める」ということでした。

「なぜ成長しないの？」栽培過程の事象に疑問を持つ

毎日の水やりや観察をする中で、外で育てているトマトに比べ、屋内のトマトの成長が鈍化しました。年長の女の子が他のトマトは育っているのに、自分の屋内のトマトは育たないことに疑問を持ち始めました。「どうしてかな…？」と保育士が訊ねると「お日さま！ お日さまが当たらないからかな」と一言。さらに保育士が「どうすればいいのかな？」と聞くと「屋上に移動したい！」と言いました。その子は普段からじっくり観察していて、送迎時にいつも玄関に置かれたトマトを見ていたのです。

その子の気付きによって、屋内で育てていた他の子どもたちからも「移動したい」との声が上がり、屋内から屋上や玄関に凛々子を移動すると、すくすくと育ち始めました。

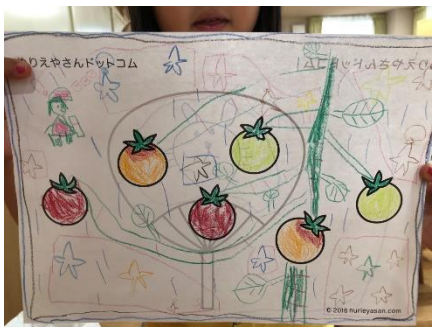
やっと実った自分のトマトを味わう

子どもたちはトマトの成長が嬉しくて、おうちでも話をしているようでした。幼児クラスだけでなく、送迎時に目にすることで乳児クラスの保護者や子どもの間でも話題になっていました。

収穫後に調理活動を行いました。各年齢にとって無理のない内容を栄養士と共に考え、５歳児がピザソースを塗り、３～４歳児はトマトや一緒に育てたバジルをトッピングするなど、役割を分担しました。みんな思い思いにのせて、個性あふれるピザができました。試食では、トマトが苦手なのに食べられたという子も多く、自分たちで育てた大切なトマトを収穫して調理し、それをみんなで食べることの喜びを実感していました。

先生から一言！実践を通して

子どもたち自身が考えて育てたトマトの収穫の喜びを味わったこと、育てる過程で感じた疑問の解決やトマトを通したおうちの方との関わりなど、さまざまな学びがありました。トマト栽培がとても楽しかったようで、その後に行っている冬野菜の栽培についても、どの子も意欲的に関わっています。「芽が出た！」「大きくなったかな？」と思い思いに観察する様子が見られます。春夏のトマト栽培の経験が子どもたちの今につながっているようです。また、本園では若い職員が多く、栽培活動の経験も少ないため、保育士の勉強にもなるプログラムでした。この活動を機に栽培活動や食育を継続していきます。



受賞理由

子どもたち自身でトマトの置き場所を決めて比較しながら栽培、観察することは、子どもたちの自主性を尊重し、栽培時の課題解決力を自然に引き出すきっかけとなっている点ですばらしいと感じました。調理活動でも、それぞれの成長に応じた年齢別の役割を作ったアイデアに拍手です！